

めざせ！ 苗場山麓ジオパーク



振興協議会だより

〔発行日〕平成26年11月20日

〔発行〕めざせ！苗場山麓ジオパーク推進室

ジオパーク認定「保留」の意味

めざせ！苗場山麓ジオパーク振興協議会は、平成26年3月、日本ジオパークネットワーク事務局に「苗場山麓ジオパーク認定申請」を提出しました。その結果は、「認定不可」ではなく「保留」というものでした。

振り返れば、栄村・津南町の集落公民館などでの説明会やガイド養成講座、幟旗の設置、ジオパーク広報展示など、多くの皆様の協力を得て、実施してきました。また、現地審査では、ガイドの皆様のお心温まる説明、商品開発部会の真剣な討議の見学と団欒、昼食では飛び入りの苗場山プレゼンテーションと美味しい食事、宿舎でもジオに関わる美味美酒で花開いた町づくり談義など、とても素晴らしい時間と人々との出会いと協働を体験しました。

苗場山麓に点在するジオ・エコ・カルチャーの要素は天下一品と誰でも認めてくれるものです。また、それらを結びつけるソフト開発は“なじよもん”の10年の準備期間と10年の実践期間で作られており、評価は高いものです。けれども、私たちが提出した＜苗場山麓物語＞というストーリーは、まだまだ焦点が甘く、内容が絞り切れていないということです。

テーマは「雪のふる里ー奥信越の川と火山がつくりだした大地・雪に育まれた自然と歴史文化ー」です。なぜ雨が降るのか、いつから多雪化がなぜ始まるのか、その天の恵みの名水が自然とどのような関わりを持ち、人類がどのようにして名水に触れて歴史文化を織りなしてきたのか、さらになぜ、鳥甲山や苗場山が噴火し、溶岩台地を形成し、どのようにして深い中津川溪谷が作られてきたのか、なぜ日本一と謳われる河岸段丘が生まれたのか。このような設問は、すべて地球全体から鳥瞰して発せられることを知り、もっとグローバルな視点で苗場山麓を歩き眺め、その物語を語れというものです。特に、「自然環境の豊かさ、そこに育まれた人類文化と自然との向き合い方」をストーリーとして纏め上げる必要が強く指摘されました。

また、具体的なジオサイトの整備計画や顔の見える体制（特に現状で不足している地質学の専門家の参入や観光部局・防災担当の積極的な言動を望むものでした）の強化と持続の担保です。さらには、ジオパークの拠点整備計画と防災教育プログラム策定、調査研究の持続が見える計画書と工程表の再提出が「保留」措置解除および「認定」への要件です。

これらに関しては、早急に内部検討を踏まえ作成して、振興協議会で語り、12月上旬に提出したいと考えています。

この「保留」は、きっと後代、振り返れば、地域住民が団結し、再度、頭をリセットする時間をあえて与えて頂いたと感じるのではないのでしょうか。ジオパークの活動は、地域住民が自らの足元を探り、原石を見つけ出し、共に汗をかき、輝く宝に磨きあげる運動です。すなわち、過疎の地域で住民から立ち上がり、地域自治を動かし、県や国へ、下から上へ、すなわち真のボトムアップ方式の町づくりなのです。今までと異なる「地方創生運動」が始まります。その担い手こそが＜ジオパーク保全活用プログラム＞なのです。

めざせ！ 苗場山麓ジオパークのロゴマークが決定！

苗場山麓を象徴するロゴをサイト等も利用し、地域内外に募集したところ、デザインの専門家などから259点の応募がありました。その中から苗場山麓の特徴が一目でわかるかなどを基準に、振興協議会内で選抜すると同時に、栄村・津南町役場に候補を掲示して地域の皆さんの意見を参考にしながら採点し決定しました。決定した作品については12月1日に行われる振興協議会総会にて、表彰式および記者発表を予定しています。

ジオガイド交流会に参加しました。

10月19日、佐渡で開催された「新潟圏域ジオパーク推進地域 意見交換会」に事務局1名、ガイド2名の計3名が参加しました。新潟県では、糸魚川と佐渡がジオパークに認定されており、苗場山麓は推進地域ということで声をかけていただきました。実際に、佐渡のガイドさんの説明を聞いたり解説看板を見たり、それぞれジオパークのガイド同士の意見交換など、今後の参考となるととても貴重な時間を過ごしました。



郵便局のスタンプラリーでジオスタンプを集めよう！



郵便局に用意されている専用台紙に全部のスタンプを押すと、郵便局と栄村・津南町から素敵なプレゼントがもらえます。

栄村と津南町の郵便局10局で、各郵便局エリアの特徴をデザインした消印が10月から使用されています。窓口で申し出ると通常の消印ではなく、ジオデザインの消印を押して発送してくれます。これは、「郵便局としてもジオパークを目指し活動していることをバックアップしたい。全国にアピールしたい。」ということで企画・実現したものです。また、これを記念した「苗場山麓ジオサイトめぐり・風景印スタンプラリー」も始まり、

第5回日本ジオパークネットワーク全国研修会

10月30・31日、三陸ジオパークにて全国研修会が行われました。今回のテーマは「ジオパークと自然災害」ということで、推進室・佐藤信之と津南町役場の防災担当が参加しました。30日は、各コースに分かれ現地見学会、31日は津波や火山、土砂災害などをテーマとした研修会やグループ討議が行われました。



めざせ！ 苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

沖ノ原遺跡（国指定史跡）



所在地 津南町赤沢 **種別** 文化

信濃川右岸、中津川左岸の段丘面（米原Ⅱ面）、標高450 mほどに位置している縄文時代の遺跡です。本遺跡は、昭和47年に調査が開始され、縄文中期の典型的な村落形態を示すのみでなく、大規模であり、そのうえ遺存状態がきわめて良好なため、昭和53年国指定史跡に指定されました。

遺跡からは、竪穴住居跡49軒、長方形大形家屋跡3軒、敷石住居跡1軒の計53軒の住居跡が発見され、火焰型土器をはじめとする縄文土器や石器、土偶が出土しています。

また、クッキー状炭化物と呼ばれる、木の実を粉にして焼いたクッキー状のものが炭になった状態で出土しています。

出土した資料1,064点は、新潟県指定文化財に指定されています。



沖ノ原遺跡 住居跡

天池



所在地 栄村上ノ原 **種別** 地質

上ノ原集落から苗場山へと上がる道の途中に位置しています。

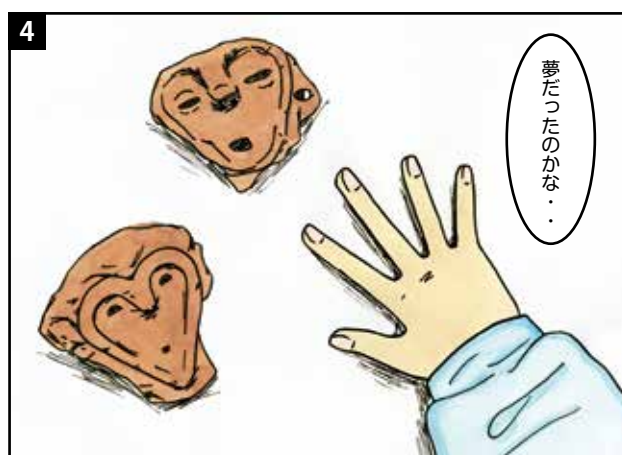
白樺やもみじなどに囲まれた池で、幻想的なたたずまいを見せ、晴れた日は鳥甲山と木々が湖面に写ります。

この天池近傍の「のよさの里」から見る鳥甲山は雄大で素晴らしく、カメラマンのシャッタースポットとなっています。

また、平成25年の秋から「秋山郷の夢灯（ゆめほ）」と題し、天池の水面や周辺にロウソクを灯し秋の宵を楽しむイベントが行われています。夕暮れ時、鳥甲山をバックに揺れる灯りは、幻想的で美しく多くの見物客が訪れます。



※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。



▼おわり

ジオツアー「津南の川の石くらべ」が10月5日に行われました



苗場山麓を流れる、清津川・中津川・志久見川をめぐり、川原の石を観察しました。みんなで石を採取して、種類の違いや起源はどこなのか・・・苗場山？越後山脈？それとも？など仲野先生の解説を聞きながら、自分だけの標本箱をつくりました。また、縄文人が使っていた石を探そう！ということで縄文時代に石器や石皿などに使われた岩石をみんなで探しました。小学1年生も帰るころには、石を見てその種類を言えるくらい楽しく学べる体験でした。

今後のスケジュール

平成 26 年 11 月 20 日・21 日
平成 26 年 12 月 1 日

世界ジオパーク審査人材教育研修会
めざせ！苗場山麓ジオパーク振興協議会 第4回総会